

水稲短期栽培について

伊藤暢恒・矢野幸重・下津盛昌・江藤慶一・井口睦夫*
(熊本県農業試験場)ITO, N., YANO, Y., SIMOZU, M., ITO, K. and INOKUTI, M.
Studies On the Short Seasons Rice Culture

水稲短期栽培とは早期用品種を用いて普通期に田植し、9月中旬～下旬に収穫する栽培型である。最近八代地方における抑制イチゴ・抑制キツリの前作として、また阿蘇地方における飼料作物の前作として水稲短期栽培が導入されつつあるが、その栽培法についてはまだ未解決の点が多い。そこで昭和38年に品種と苗代日数について検討したので、その概要を報告したい。

試験方法

供試品種は早期用品種の中から代表的な9品種・1系統を用い、苗代日数はA30日・B25日・C15日としAは6月20日に田植し、B・Cは6月25日に田植した。(Aは35日苗で6月25日に田植する予定であつたが、苗が伸び過ぎる傾向があつたので移植期を5日早

めた。)

栽植密度はm²当り24株4本植とし、肥料は元肥としてアール当り硫酸2.5kg、過石4kg、塩加2kgを施し、追肥として7月26日に硫酸1kgを施用した。

試験成績及び考察

移植時の苗令は30日苗6.2～6.5葉、25日苗4.8～5.2葉、15日苗3.4～3.8葉で品種間差が少なかったが、草丈は普通期品種にくらべて一般に伸びる傾向があつた。

栄光、紅光、早農林は25日苗・30日苗に不時出穂がみられ、ハツニシキの30日苗も稀に不時出穂した。越路早生・コシヒカリ・フジミノリ・西南8号は30日苗でも不時出穂はなかつた。

出穂期は極早生種の栄光・早農林が8月上旬、早生

第1表 生育ならびに収量

品 種 名	苗代日数	不時出穂の多少	出穂期		穂揃日数		成熟期		生育日数	稈長	穂長	穂数	倒伏の多少	アール当玄米重	同標準比率
			月	日	日	日	月	日							
栄 光	A	多	7	28	14	9	6	73	62.7	17.0	22.9	木	27.7	54	
	B	多	8	1	12	9	8	75	58.8	15.9	20.7	ハ	28.7	56	
	C	ム	8	5	10	9	10	77	63.5	17.0	20.4	ハ	26.5	52	
紅 光	A	多	8	4	12	9	10	77	95.8	19.6	15.6	少	30.1	59	
	B	少	8	9	9	9	13	80	67.5	20.0	16.3	少	33.8	66	
	C	ム	8	13	8	9	18	85	105.3	19.7	14.3	甚	27.8	55	
早 農 林	A	多	8	1	12	9	10	77	72.6	17.0	22.9	ハ	31.4	62	
	B	多	8	5	9	9	12	79	74.9	16.5	19.4	ハ	33.1	65	
	C	ム	8	9	7	9	14	81	80.9	16.8	19.5	ハ	32.8	64	
越 路 早 生	A	ハ	8	11	9	9	15	82	97.6	19.9	15.3	ビ	43.1	85	
	B	ハ	8	13	8	9	16	83	92.8	20.1	15.2	少	42.8	84	
	C	ハ	8	14	7	9	18	85	90.2	18.7	15.4	少～中	38.3	75	
ハ ツ ニ シ キ	A	稀	8	12	10	9	18	85	100.1	17.7	19.7	多	37.1	73	
	B	ハ	8	14	9	9	20	87	100.5	18.6	21.0	多	41.0	81	
	C	ハ	8	15	7	9	22	89	95.1	18.2	20.0	甚	38.5	76	
コ シ ヒ カ リ	A	ハ	8	12	7	9	18	85	99.3	18.9	16.5	多	44.0	86	
	B	ハ	8	16	6	9	22	89	101.5	18.6	17.6	多～甚	40.1	79	
	C	ハ	8	21	6	9	24	91	100.8	17.9	18.7	甚	35.5	70	
フ ジ ミ ノ リ	A	ハ	8	11	9	9	19	86	105.1	20.1	14.8	ビ	44.5	87	
	B	ハ	8	14	8	9	21	89	102.7	20.3	14.3	ビ	43.1	85	
	C	ハ	8	19	7	9	26	94	104.9	19.2	15.6	ビ	42.8	84	
西 南 8 号	A	ハ	8	10	8	9	18	85	84.3	20.1	12.6	ハ	49.0	96	
	B	ハ	8	15	7	9	20	87	86.9	20.7	14.3	ハ	46.3	91	
	C	ハ	8	19	7	9	24	91	90.4	19.6	17.0	ハ	47.1	93	
農 林 29 号	A	ハ	8	27	6	10	6	103	100.2	19.5	14.3	少	50.9	100	
	B	ハ	8	29	5	10	8	105	100.1	19.9	15.2	少～中	48.1	95	
	C	ハ	9	2	5	10	11	108	99.7	19.2	15.4	多	43.3	85	
マ ン リ ヨ ウ	A	ハ	8	21	6	9	30	97	95.2	19.7	15.1	ビ	55.3	108	
	B	ハ	8	23	5	10	1	98	88.6	19.1	15.6	ビ	51.2	105	
	C	ハ	8	25	5	10	3	100	87.5	18.6	17.7	ビ	43.8	86	

* 現神奈川県農業試験場

種の越路早生・フジミノリ・コシヒカリが8月中旬、晩生種の農林29号、マンリョウが8月下旬で、早期栽培にくらべて生育日数が20日～25日短縮された。苗代日数と出穂期との関係についてはコシヒカリ・フジミノリ・西南8号は出穂期の差が大きく、越路早生、ハツニシキは出穂期の差が少なかった。そして一般に穂揃いが悪く、とくに30日苗が悪かったが、コシヒカリ・西南8号は30日苗でもかなり穂揃いがよかつた。

稈長・穂長・穂数については苗代日数の差は明らかでないが、早期栽培に比べると一般に稈長が伸る傾向がみられ、倒伏し易く、とくに15日苗の倒伏が多かつた。なお穂数については有効茎歩合が高く、早期栽培と同程度の穂数を確保することができた。

収量については一般に生育日数が長いほど多収を示す傾向がみられた。そして10月上旬収穫の品種ではマンリョウが多収を示し、9月20日前後収穫の品種では西南8号・フジミノリが多収であつた。9月上旬収穫の極早生種はいずれも低収であつた。苗代日数と収量

との関係については、(不時出穂した品種を除けば)いずれも30日苗が高い傾向を示した。

要 約

水稲短期栽培における品種と苗代日数について9品種1系統を供試して検討した。

(1) 苗代日数については極早生種は25日苗で不時出穂したが、その他の品種は30日苗でも不時出穂しなかつた。そして(不時出穂した品種を除けば)いずれも30日苗が多収を示した。しかし30日苗は一般に穂揃いが悪い傾向があり、場合によつては不時出穂の懸念がある。したがつて一般的には25日苗(4.5～5.0葉)が安全かと推察される。

(2) 9月下旬収穫の品種ではマンリョウが多収を示し、イモチ病にも強いので有望である。9月中旬収穫の品種では西南8号、フジミノリが多収を示したが、西南8号はイモチ病に弱い欠点がある。したがつて現段階ではフジミノリが有望であらう。しかし更に適品種の選定に努めたい。